

# 「岩岡小学校の考古学のアウトリーチ活動の取組」

## 1 学校名

中種子町立岩岡小学校

## 2 学年・人数

全校児童（15人）

## 3 日時・場所

### (1) 学習会等の日時・場所

- ・ 学習会：11月～12月 生活科及び総合的な学習の時間  
令和5年11月15日(水)「遺物ってなんだろう～石器づくり」  
令和5年11月30日(木)「古代の種子島について知ろう～環境変化～」  
令和5年12月15日(金)「これからの種子島はどうなるのだろうか」  
※ 天候不良により、現地観察は中止

## 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

### (1) 名称・時代

- ・ 平松B遺跡（ひらまつびーいせき）

### (2) 特徴

種子島中種子町坂井に、今から14,000年前から12,800年前の縄文時代草創期の土器が出土した。土器には、紐のような粘土を作って貼り付けた隆帯文や貝殻の裏で模様を付けたものがあることで遺跡の時代が判明した。他にも、石斧やたたき石、木の実を磨り潰すために使われたと思われる麻石と石皿が出土している。

## 5 保存会や地域との連携の具体

令和4年度からアメリカ国立科学財団による研究プロジェクト「南九州における後期更新世の土器の期限に関する高精度研究」の一環として、平松B遺跡の埋蔵文化財発掘調査（3年間）を実施している。

本年度は11月からの発掘調査に伴い、遺跡や種子島の古代社会について周知するために、遺跡の地元である本校でのアウトリーチ活動が計画された。土器が出土した発掘現場は、地域の畑の一角であり、協力をいただいている。

## 6 活用の取組の工夫した点

第1回目は、発掘された土器や石斧等、古代の種子島の人々が使った道具を観察し、実際に石斧を作る様子を見学し、その作り方について学んだ。第2回目以降は、考古学者の方が作成した資料を基に、グループに分かれてそれぞれのテーマについて調べたことを発表し合った。また意見交換をしながら、古代の気候・環境・暮らしについて知り、近年の温暖化に伴う気候変動の影響について調べ、今後どのような変化や問題が起きるのかを推測し、自分たちにできることを考えることができた。

## 7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

わたしたちの学校がある屋久津集落を始め，種子島で発見されている遺跡がたくさんあることを，今回の考古学のアウトリーチ活動で，初めて知りました。考古学のアウトリーチ活動で学んだことの一つに「石器」があります。石器はいろいろな場所で発見されているそうです。いつ作られていたかは，地層を見ると分かるそうです。考古学者の飯塚さんに，発見された物がいつの時代の物かや古代人の生活の様子や工夫も教えていただきました。

石器づくりでは，黒曜石を削って矢じりの作り方を教えていただきました。クラッシュ，プレッシャー，削る等の様々な作り方がありました。黒曜石は削れやすく硬いので，矢じりにするのにとてもよい素材だということです。

3回のアウトリーチ活動では，これまで知らなかったことがたくさんあり，とても勉強になりました。最後の現地観察では，天候不良で中止となり残念でした。でも，学校からも近くだったので，学級の友達と実際に行ってみました。わたしたちの町から，古代の人が使っていた道具が出てくるなんて，とてもすごいと思いました。（児童感想より）